

順正寺報 第三号

'91.4.

永代経 御案内

記

風薫る五月、貴家皆様には御健勝にてお過
ごしの御事と存じます。

さて、例年の通り下記により「永代経法要」
を厳修します。

「永代経法要」とは、「私」が子供や孫そして
子孫の幸福を願うと同じ様に、「私」に幸せて
有って欲しいと願って下さっている御先祖に感
謝の思いを込めてつとめる大切な行事です。

常日頃、生活の多忙さにかまけて、ついつい
忘れていた御先祖のお陰に気付き、仏恩報謝の
ひとときを共に過ごしましょう。

萬障繰合せ御参詣下さい。

五月六日(月)午後一時より

法祝奴社 (衆僧供養)

法話 おととき その他

※当山順正寺では永代経志を左記に定め、過去帳
に記載し永代供養致しております。御希望の方は、
住職迄お申し出下さい。

◎永代経 (祥月命日読経) 金、壹拾萬円也

◎特別永代経 (毎月命日読経 祥月命日特別読経)

金、参拾萬円以上

以上

壇信徒徒各位殿

順正寺 住職

気が付くままに一言。

佛教は、お宗旨しゆじに關係なく、悟りを開いて佛に成るというのが最終目標です。転迷開悟てんめいかいご。迷いを転じて悟りを開くと申します。その悟りの開き方ですが、一般的に『頓悟』『漸悟』という言葉がございまして、頓悟とんごというのは、禅宗何かの教えがそうなんです、修行をつみましてね、ある日突然、迷いがスッと吹っ切れてね悟りを開いて仏の位に入る。お釈迦様が明けの明星を御覧になって、菩提樹の基で悟りを開かれた、ああいう状態を頓悟とんご。突然に迷いが吹っ切れて、そして悟りを開く。

漸悟ぜんごとは、東漸とうぜんとか西漸せいぜんとか、段々と、何時の間にか、知らぬ間にという意味ですね。一生懸命修行というわけにはいかないんです。毎日暮らしの中から知らぬ間に悟りを開く境地に入っていく、それを漸悟と申します。大乘佛教は大旨おほしるし、その漸悟という事が、根本もとになっているのだろと私は思います。

何故こんな事を申しましたかと申しますと、今二人、こうして両脇りょうわきに孫が座っております。(兄・純香6才。弟・心光4才。)三年前に兄の方が初めてここに座った時には、弟と同じでお経中ぜんぜん落着かなかった。

ところが今日はずーと始めから終りまで手を合わせて合掌がっしょうしておりました。弟が悪戯あくごをするのが心配でね、時々睨み付けておりました。手本を一生懸命みせてる。弟の方は我関せずでね、「今日はここへ座ればいいんだ。」と、只それだけです。ね。(弟うなづく)昨夜電話でね、「明日よろしくお願いします。」と、家内にゆうておりました。これも何年かたつと兄のようになるだろうし、もっとしまいいには、一緒にお経を読んできれるだろうと。

こういう状態を漸悟ぜんごというんでしょうね。私自信もやっぱりそうでした。お陰様で寺に命を授けられて、そして寺で育っているうちに、知らぬ間にお経を覚え、知らぬ間にお檀家参りをし、知らぬ間に皆さんの念佛ねんぶつの声に促うながされて念佛を称える身になった。

こっちにいる貫裕かんゆうというのですが、(京都、住職の実家の三男)私は貫照かんしやう。私の家は代々名前に「貫」が付いておりましたね、だから関西じゃ「カンカン坊主」つわれていて、友達と喧嘩すると「この、カンカン坊主！」なんて言われちゃってね、腹立てた事が良くあったんですが、私の兄が貫練かんれん、貫裕の兄さんが貫洋かんよう・貫栄かんえい、うちの長男が貫正かんせいでしょ、カンカンカンカンときちゃって、「ノド自慢」なら一遍で当選。

まあ、それはさておいて、貫裕も小さい時から本堂に座っております。結婚して、我々所帯を持って以来づつと、毎年京都に報恩講ほうおんこうには帰るんです。本当に小さい頃から座ってた。一生懸命、真似して座っておりますね、そして、お経が終るとね、私の母が物凄く誉めてる。「裕ちゃん良かったね、立派だったね。」と。これも誉められて、誉められた結果こうなった。うちの息子達も同じです。やはり誉められた結果がこうなった。えー、ですから、今お経をあげながらカチカチ叩いていたら注・お経をあげる時、音木おんぎという物を叩く）真似して、弟の方がカチカチやり出した。しまった！ここに同じものを置いたのが悪かった。叩いてるこの子は悪くない。置いといた自分が悪かった。と、そのうちに、一生懸命叩いているのか、始めは合わなかったのが、終いには合わせましたからね。んー、だからやっぱり、これも一生懸命叩いておるんだなと思うと、なんか、こう涙ぐましい。おじいちゃんというもんはこういうもんでして、何だかってかんだって、良いように良いように解釈しちゃう。こういう状態を漸悟ぜんぶというんです。あなた方も、私も含めて、毎日の暮らしの中で、「こういう良いことをさせてもらったなあ」と、そういう事に気が付く度に、これも

親から教わったことだな、親が見守ってくれておる、亡くなった夫が見守ってくれておると、そういうように、もう一つ、もう一つ、この想いを掴めと、そして自分に幸せな人生を全うしてくれと。別にね、大金持ちになれとは誰も言ってません、先祖はいいですか、これは私はいつも言うんですよ。御先祖は子孫に大金持ちになれなんて誰も言っていないんです。俺達は貧乏したからお前達はその代わり金持ちになれえ！なんて命令して死んだ先祖いやしないんだから。大金持ちになれとも言っていない、どうなれとも、こうなれとも言っていない。幸せであってほしいとだけ願ってくれておる。それだけを信じて、一日の暮らしの内に、何か、どんな事柄でもいいから幸せを見付けて、あっ、これは見守って下さっているお陰だな、と、フツと気が付く、そういう暮らしを続けさせてもらうのが、彼岸に至る道である。彼岸とはそういう事。彼岸とは、彼岸ですね。彼の岸、彼の岸に至る道である、と、こういうように思います。

あんまり長くするとね、もういい加減止めないかな、てな顔してますから今日はそのう事で。

(平成三年三月二十四日)

彼岸会法要より 住職

ここで皆様よりお送り頂いた、詩・短歌を御紹介致します。

いたみ・・・

人は折々に心が痛むと云う

私もそう思い、云って来た

それがごく自然な表現で

悲しい時、苦しい時、などなど

何時も心が痛むと云っていた

だがこの頃フツと気付いてみると、

心でなく、命が、

この命が、キリキリと痛むのである

命が痛むという事はどうしてなのか

わからない

心でなくて、確かに、私のこの命が

痛んで仕方がないのだ！(H・E)

広島、陸橋落下事故に想い・・・

つゆの世に

つゆの命と

しらずして

つゆと散りゆく

悲しさよ (女性・84才)

これからも、色々な投稿を待っています。

『白色白光の△△』御案内

五月の「白色白光の会」は、左記の

通り執り行ないます。

記

◎日時・五月十五日(水) 午後一時より

◎会処・順正寺本堂

新規会員も随時募集しております。

詳しくは当寺までお問い合わせ下さい。

「今ここに僕がいる。どうだい？ 凄いだらう？ エッ？ 何がって。いいかい、よく考えてごらん。もし仮りに君達が、僕の考え方を、生き方を否定したとしてもだ、今ここに息をして僕が存在しているという事実は誰も否定する事が出来ないのさ。これ以上スゴイ事があると思うかい。」

六年程前に公演した芝居の台本に、何かもの足りなさを感じ、勝手に書き足した台詞の一部です。

何故、今更こんなものを載せたかと申しますと、今の世の中では、その『存在』ですら否定されてしまうことが平気で行われている。その中で生きているのだと思ったら、思い出した、只、それだけの事です。

合掌

〒177 東京都練馬区石神井町三の十七の四

03 (3996) 2064

順正寺